

松葉川温泉と四万十川の沈下橋

右城 猛

■ まえがき

東京に住んでいる娘が、3月18日に初孫となる男の子・祐希を産んだ。1週間前の3月11日に東日本大震災が起きており、東京では育児が何か不便なことから、3月29日に子供を連れてわが家に帰ってきた。娘婿もGWを利用してわが家に来たので、四万十町日野地にある松葉川温泉に家族で出かけることにした。

松葉川温泉は、泉質、料理共に評判が良く、一度は行ってみたいと思っていた。

今年の3月5日に、須崎西ICと中土佐ICの間的高速道路が開通したので、わが家から2時間弱の時間距離である。

■ 松葉川温泉

松葉川温泉は、四万十川の源流・日野地川の渓谷に湧く温泉。泉質は単純硫黄泉(いおうせん)。pHが9.35もあるアルカリ性の鉱泉なので、肌がツルツルする。

江戸時代から難病に効く霊泉と知られていたようであるが、松葉川温泉として営業が始められたのは昭和44年と新しい。日野地部落の高尾能宣氏が営林署から湯の使用権を得て岩風呂の浴場を作り、その傍に松葉川農協が宿泊施設を建てたのが最初と言われている。



ホテル松葉川温泉の入口。

平成5年の4月1日からは窪川町営、市町村合併後は四万十町営となっている。



後方の建物が4階建ての宿泊施設。併設した右手の建物が浴場。



ホテルの裏には、日野地川に吊り橋が架かっている。吊橋を渡って対岸の石神山に行くと、森林公園「遊湯の里」がある。原生林の中に設けられた遊歩道で森林浴を楽しむことができる。



遊歩道の脇に咲いたシャクナゲ。今年は裏年で花が少ない。



森林浴を楽しむことのできる遊歩道。



湯上がり橋から眺めた日野地川。渓谷に上品に咲いた「藤の花」が心を和ませます。



6時半から夕食。まずは、生ビールで乾杯。風呂上がりであったのでとても美味しく感じた。

今日の料理は「四万十の春」。川エビの唐揚げ、鯉のタタキ、窪川米豚の蒸し焼き、子持ち鮎の塩焼き、柏餅、黒毛和牛のタタキ、青のりの天麩羅などの品が出てきたが、どの料理もお世辞抜きに美味しかった。特に、子持ち鮎の塩焼きは抜群。養殖鮎の冷凍ものとはとても思えない旨さであ

った。

柏餅も美味しかった。料理長の広瀬光男氏の腕前によるのであろう。



見た目にも美しい籠盛り

■ 沈下橋

1999年の調査によれば、全国の一級河川及び支流には合計410橋の沈下橋があり、都道府県別に見ると高知県69橋、大分県68橋、徳島県56橋、宮崎県42橋の順で多く、一級水系以外も含めると大分県には212橋の沈下橋が確認されている。

四万十川とその支流には60橋余りの沈下橋が現存しており、そのうちの47橋が、「四万十川沈下橋保存方針」に基づく保存対象になっている。

松葉川温泉の約4km下流に、一斗俵沈下橋と清水大橋の2つの沈下橋が架かっている。松葉川温泉からの帰りに見学した。



一斗俵(いっとひょう)沈下橋。橋長60.6m、幅員

2.5m。壱斗俵と米奥の集落を結ぶために、昭和10年に架設されたもので、四万十川に現存する沈下橋の中では最も古い。国の登録有形文化財に指定されている。



水面に映る一斗俵沈下橋



一斗俵沈下橋の上から眺めた四万十川の風景。



昭和40年に架設された清水大橋。橋長102.1m。幅員2.8m。一斗俵橋の約700m下流に架かっている。

■ あとがき

松葉川温泉は評判通りであり、料理、温泉共に満足できた。露天風呂からは、日野地川の溪谷に咲く藤の花、新緑の眺めが素晴らしかった。宿泊料金が安いのも魅力的である。

ここに来れば、四季折々の料理と風景を満喫できるに違いないと思えた。年に一度は、ゆっくり訪れたい場所である。



娘夫婦と生後46日目の初孫・祐希

2011年5月3日記